

2022年度 JKA補助事業(更生保護施設の建築)について、2回目の自己評価を行ってください。

・提出期限：2024年1月31日(水)

・提出先：p2022hyoka@keirin-autorace.or.jp

《2022年度JKA補助事業 自己評価書(2回目) 記入のしかた・記入例について》

- * **青字部分**は記入例です。記入の際、参考にしてください。
- * **水色箇所**は記入箇所、**ピンク色の項目**は選択肢の中からひとつを選択していただく項目、**緑色の項目**は複数選択可の選択項目となります。
- * 以下の【記入にあたっての注意点】もご一読のうえ、ご記入ください。

2022年度自己評価書(2回目) 様式・記入例 ↓

【記入にあたっての注意点】

整理番号	2022P-	補助事業者名	社会福祉法人〇〇〇会	補助事業名	更生保護施設の建築			
◆整理番号、補助事業者名(法人名)を記入してください。								
2022年度 JKA補助事業 自己評価書(2回目)								
作成年月日	2024	年	1	月	25	日	作成者	競輪 太郎
◆作成日、作成者を記入してください。								
1. JKA補助 建築について(2022年度補助事業で整備された更生保護施設についてご記入ください。)								
施設の種類	更生保護施設							
建築施設名	〇〇〇苑			構造	鉄筋コンクリート造2階建て			
建築施設の所在地	東京都港区港南一丁目2番70号			延床面積	783.08 m ²			
建築した施設の形態	<input type="radio"/> 法人にとって初の更生保護施設 <input checked="" type="radio"/> 既存更生保護施設老朽化のため建て替え <input type="radio"/> その他							
	◆あてはまるものをひとつ選択してください。							
	※その他を選択した場合、詳細をご記入ください ⇒							
	◆「その他」を選択した場合のみ、記入してください。							
建築した施設の特長	被保護者が善良な一員として再出発するためにふさわしく、明るく清潔感があり、個人を尊重した居住環境になった。近隣住民との調和を十分に意識し、住民のニーズを取り入れ、地域社会の公益に配慮した「地域交流室」を設置した。再犯防止の一環として、当苑を退所した者への居場所づくりとして「フォローアップ室」を併設した。							
	◆今回建築した更生保護施設の特長(特に優れている点やアピールポイントなど)を記入してください。							

利用開始日

2023年4月1日

運用月	宿泊供与人数					食事給与人数				
	延べ人数			実人員		延べ人数			実人員	
	委託保護		任意保護	委託保護	任意保護	委託保護		任意保護	委託保護	任意保護
	援護等	更生緊急保護				援護等	更生緊急保護			
1	2023年 3 月									
2	2023年 4 月		2		2		21		2	
3	2023年 5 月	2	2		3		31	46	3	
4	2023年 6 月	2	3		5		51	56	5	
5	2023年 7 月	3	2		5		59	31	5	
6	2023年 8 月	4	2		5		61	45	5	
7	2023年 9 月	5	3		8		71	66	8	
8	2023年10 月	1	3		4		11	75	4	
9	2023年11 月	3	6		8		59	89	8	
10	2023年12 月	9	6		14		177	113	14	
月平均		3.625	3.2222		6		65	60.222	6	

★定員数について教えてください。

定員	男性	20	名
	女性		名
	合計	20	名

★入所者の年齢区分について教えてください。(複数選択可)

<年齢区分>

☐ 10代

☒ 20代

☐ 30代

☐ 40代

☐ 50代

☐ 60代以上

★施設で行っている専門的な処遇について、ご記入ください。

処遇	具体的内容
<input type="checkbox"/> 酒害・薬害教育	
<input type="checkbox"/> SST	
<input type="checkbox"/> 心理援助プログラム	
<input type="checkbox"/> 就労促進プログラム	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	フォローアップ事業(更生緊急保護の法定期間を経過した者に対する生活相談支援)

★地域との交流等がございましたら、その具体的内容等をご記入ください。

・自治会が自主的に行っている集団回収が毎月実施されているため、分別作業に入所者も参加している。

・恒例参加としている運動会、秋祭り、グランドゴルフについても、入所者に積極的に参加するよう声掛けを行った。

◆保護した入所者の状況について、記入してください。

2. 以下の評価項目について、ご記入ください。

a. 個別の評価項目について、交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(3/5) 4. 補助事業の事前計画』の、達成状況等を把握し、ご記入ください。

○採点基準については、2022年度補助事業実施に関する事務手続要領『別冊評価要領』自己評価スコアリングガイドをご参照ください。

(1) 受益者 (ニーズ)	新施設は、1階には高齢化社会を意識し、高齢者・障がい者用のバリアフリー化の居室を設けたほか、広く地域住民に利用いただける地域交流室と施設退所後の居場所づくりとしフォローアップ室も併設した。2階には、16の個室と2人用の和室が2か所あり、天井からの採光で明るく開放感のある談話コーナーも設置した。全室に冷蔵庫、テレビや冷暖房が設置されるなど入所者の居住環境が大きく向上し、高齢者や障がい者等の自立困難な入所者をはじめとする、特性に配慮した処遇の充実が期待できる。			採点 4	
	事業の 新規性 または 継続の 必要性	安全・安心な地域社会の実現のために最も重要視されているのが再犯防止である。また、犯罪や非行をした人の改善更生への支援等に当たっての力となるのは、出所後の「仕事」であり、社会での「居場所」づくりが重要である。当苑は、再犯リスクの高い満期釈放者等を積極的に受け入れ、こうした人たちが施設を退所後、地域で居場所を得て、生活基盤を築き、安定した生活を営めるよう、地域社会との共生をさらに深めながら、充実した処遇の実現を図る。			採点 4
(2) 事業内 容	事業の 発展性	特に犯罪障がい者が地域で生活でき、近所の方とのふれあいをもちことで地域住民の認識も高まり、少しずつではあるが障がい者に対する理解が進んできたと思われる。			採点 4
(3) 達成 目標	事業の 成果・波及 ※自己評価1回 目から変化が あった場合に ご記入ください	[達成値] 年間70名受入平均 収容人員85% 以上、地域交流 室の年間利用者 300名	[達成状況] 60%	[具体的内容] 年間受入35名、退所者18名、次年度継続17名、収容率50%であった。 地域交流室年間利用者は地域住民164名、更生保護関係者135名、保護司会13名で、年間希望利用率の104%であった。	採点 3

b. 交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(2/5) 3. 補助事業実施の必要性(1)補助事業が最終的に目指すこと』の、達成状況をご記入ください。

薬物事犯者は、他の罪名に比べて刑務所に再入所する者の割合が高く、その改善更生のためには、医療・福祉機関等と連携して、より長い処遇が必要であり、地域に根ざした刑務所出所者等の更生の場として、更生保護施設の役割は、重要なものになっている。当苑では、2023年度は薬物依存傾向が低い6人(一部執行猶予4人)を受け入れた。特にトラブル等は無く3人は退所し、後の3人は就労中である。

3. この施設に対する施設利用者等、関係者の声をご記入ください。

居室が個室となっていて、プライバシーが保たれる。空調やTVも備えてあり、快適に過ごせる。

4. この施設に対する施設職員の声をご記入ください。

改築後の施設では、個室16部屋、2人部屋が2部屋あり、入所者のプライバシーの保護に配慮された居室となった。個々の特性に応じた金銭管理、健康管理、就労支援、退所後の住居支援、退所後に必要な福祉機関への調整支援等の業務も積極的に行っている。また、更生保護女性会による給食奉仕活動も再開された。退所者のためのフォローアップ室も提供されており、孤立防止や再犯防止になっている。地域交流室も地域の方々に開放し自治会や保護司会、更生保護女性会の会議等に活用されている。

◆1回目の自己評価の際と同様に、事前計画／自己評価書(3/5)の目標に対し、どれだけ達成できたかを記入してください。
採点欄については、別シートのスコアリングガイドを参照の上、採点してください。

◆(3)達成目標については、1回目の自己評価時から達成状況などに変化があった場合、変化があった後(現在)の状況について記入してください。
!!注意!! 達成状況のパーセンテージについては、1回目の自己評価時との比較ではなく、事前計画／自己評価書(3/5)記入の内容と比較して算出してください。

◆事前計画／自己評価書(2/5)の「最終的に目指すこと」に対して、現時点での達成状況を記入してください。

◆今回建築した更生保護施設についての感想など、施設利用者等及び関係者の声をご記入してください。

◆今回建築した更生保護施設についての感想など、施設職員の声を記入してください。

5. この施設について客観的な立場から論評できる人(法人の監事、行政の福祉担当者、大学の先生等の有識者等)のコメントを自由にご記入ください(できるだけ2名以上、論評者及びコメントを記載してください)。

貴苑は、永きにわたって、「報怨以德」の由来をモットーとした家族のような関わりを通じて、帰るべき場所がない多くの矯正施設出所者等の社会復帰を支援し、再犯防止に多大なる成果を挙げてこられました。これまでも地域の自治会の会合等に会議室を提供していただき、地域社会との融和を大切にされてこられました。今回新たに設けられた地域交流室はこれまでと同様、地域の皆さんに開放し、あるいは災害時の一時避難場所として活用できること、また、貴苑の敷地内に自治会の倉庫を設置させていただくなど、地域住民のための尽力もしていただき大変喜ばしく思っております。(自治会顧問)

当該施設は、これまでも入所者のみならず退所された人の社会的つながり、居場所(サードスペース)として機能してきましたが、施設改築による居室や相談室の環境改善は入所者のプライバシーに関してより配慮できるようになりました。現代的課題である生活困窮者自立支援の対象に更生保護の対象者である本施設の入所者も含まれますので、支援の必要性は益々高まると考えます。また、会議室の地域開放も行われていますので、今後、更なる地域住民との交流も検討されることを期待しています。(〇〇大学 人間福祉学部教授)

6. 更生保護施設を取り巻く状況や課題をお聞かせください。

再犯防止の取組を総合的に促進するため、平成28年「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立、施行された。社会情勢の変化や高齢化、人間関係の希薄化などを背景に、社会の中で居場所を失い、孤立して生きづらさを抱える人に寄り添い、暮らしやすい社会実現に向けて、更生保護施設役割に対する期待は、かつてないほどの高まりを見せており、その役割を担うことが求められている。

7. その他、施設に関する特記事項、上記1～6についての補足やJKAに対するご要望等ございましたらご自由にご記入ください。

法人単独での整備が困難な状況であるため、今後も更生保護施設建築に対する補助を続けてほしい。

以上となります。 ご協力ありがとうございました。 p2022hyoka@keirin-autorace.or.jp までご送信ください。

【建築(更生保護施設)】

◆施設の職員等ではなく、法人の監事や行政の福祉担当者、大学の先生等の有識者等のコメントを記入してください。

◆更生保護施設の現状や課題、また、高齢化社会における福祉との連携等での問題点や課題等を記入してください。
なお、国の施策、それに対する影響等がありましたら併せて記入してください。